

【試し読みサンプル】

「枕に帰す」

作・ひきだ愛音（戯曲本舗）

【登場人物】

ゆう子

青年

真奈美

研二

武田

木島

店員（青年と兼役）

運転手

バーテン

母親 ※シルエットだけ出演するか、舞台上に存在させない）

【ページ数】全43ページ（タイトル、配役ページ含む）

【上演時間】1時間20～40分

【プロローグ】

どこかのバーにて。

カウンターの向こう側に、バーテンの格好をした青年が一人、立っている。しばらくして入り口の扉が開き、一人の女：ゆう子が入ってくる。

青年：いらつしやいませ。

ゆう子、あたりを見回しながら、ゆつくりカウンターへ近づいていく。

ゆう子：すみません：ジントニック。

青年：はい。

ゆう子、カウンター席に座る。二の腕を抱えるような体勢で待つ。

【1】

青年、ジントニックらしき飲み物が入ったグラスを持って登場。ゆう子の前にグラスを置く。

青年：お待たせ致しました。

ゆう子、グラスに口をつける。

ゆう子…：あの、すいません。これ、本当にジン入ってます？

青年…いいえ。

ゆう子…え？

青年…トニックウォーター、ライム風味、名付けて“飲み過ぎゆう子スペシヤル”です。

ゆう子…：あれ？

青年…気づいた？

ゆう子…ウソ！

青年…ひさしぶり。

ゆう子…えー！

青年…そんなに？

ゆう子…びつくりした…何してんの？こんなところで。

青年…こっちの台詞だよ。何してんの、こんな時間に一人で。

ゆう子…何って、まあ…飲んでた。

青年…みたいだね。

ゆう子…うん。

青年…珍しいね、一人でこういうところ来るなんて。

ゆう子…うん…ちよつと眠れなくて。

青年…うん。

ゆう子…そっちは？何してたの？今まで。

青年…酒作ってた。

ゆう子…みたいだね。

青年…酒作りながら待ってた。ゆう子が来るのを。

ゆう子…ここで？あたしここ、初めて来たのに。

青年…ゆう子のことならなんでもわかるよ。

ゆう子…：（笑う）

青年…なに？

ゆう子…ほんとさあ、よくそんなこつ恥ずかしいこと言えるよね、真顔で。

青年…言っほしいんだろ？こういうこと。

ゆう子…ヤなやつ。…（間）。

青年…なに？

ゆう子…ううん。会えて嬉しい。

青年…そんなに会いたかった？

ゆう子…だって、急にいなくなっちゃうんだもん。

青年…いなくなってるないよ。

ゆう子…え？

青年…呼び出してくれればよかったのに、いつでも。

ゆう子…：ねえ、お酒作って！今度はホンモノ！

青年…まだ飲むの？

ゆう子…飲む。今夜は記憶なくすまで飲む！

青年…大丈夫？

ゆう子…もうね、全部忘れたいの。何もかも。

青年…ずいぶんヤケてるんだね。あ、介抱はしないよ、言っとくけど。自分で責任取っ

てよ。

ゆう子…はいはい。

青年…何飲みたい？ジントニック？

ゆう子…じゃあ、バーテンダーさんのおすすめを。

青年…かしこまりました。

青年、カウンターに入りカクテルを作り始める。

青年…で？どうなの、最近？

ゆう子…いいよ、別にそういうのは。

青年…なんでよ。

ゆう子…聞いたって何にも面白くないでしょ？平々凡々としてるだけで。

青年…いいじゃん、話してよ。全部吐き出しちゃえばいいじゃない。…会社は？

ゆう子…変わらないよ。上司はいつもイライラしてて、後輩はいつもドジってて。

青年…武田課長、と、誰だっけ、木島さん？

ゆう子の回想が始まる。

続